

「地域構想」学の現代性

☆「**地域を発見する**」という視点の現代性

- 20世紀、科学技術の発展により、人間による**地表の改変**が大規模化。
- それは、**伝統文化の変容と地球規模の環境改変**という変化をひきおこした。
- この**近代化・グローバル化**を支えてきたのは、**マクロ理論とミクロ理論**
- それを乗り越えるには、「**メソ**」=「**地域**」の視点が必要。

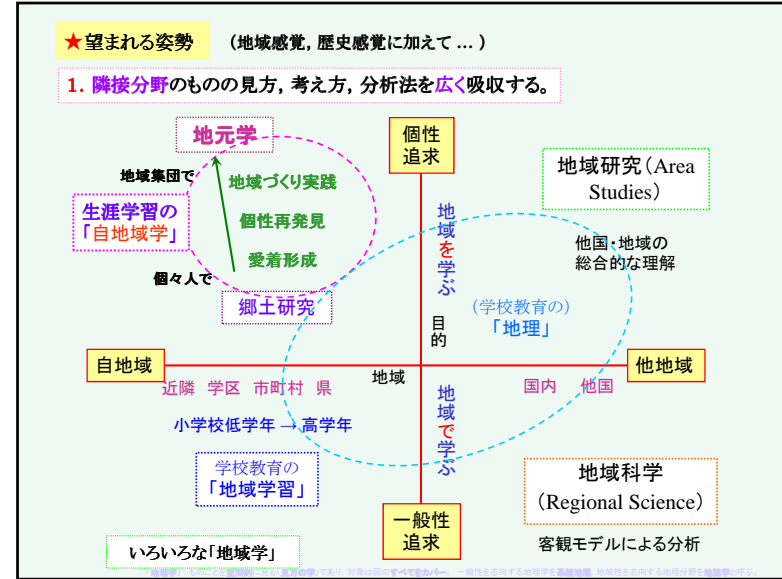
・「**地域**」とは、人々の具体的な**暮らしの場**。

・そこには、**競争**に起因する多くの**問題**を含みつつも、**自然と人間との相互補完システム**、**生活を共にする歴史**の中で作り上げられてきた「**助けあい**」、生活を健康的に持続させるための**工夫**が息づいている。

・それを見出すことは、すなわち「**地域**」の「**まとまり**」を発見すること。

・そして、その背後にある「**つながり**」と、それが**持続する「論理」**を知ること。

・さらに、それをふまえて「**よりよい地域**」のあり方を考えること… これこそが、私の考える「**地域構想**」学。



「基礎論」高野5回目

地域を「**構想**」する ... とは?

1. 地域の「**特性**」を知る

- 地域の「**時空間**」の成り立ち—まとまり, つながり, よりどころ—を知る。
- それを「**相対化**」する... 他地域, 代表事例, 一般理論 etc. との比較・対照

2. 地域の「**問題構造**」を把握する

- 地域の**問題点**を整理する。 問題発生**のマクロ構造**を整理する。
- 問題にかかわる地域の「**資源**」と「**主体**」を整理する
- 問題現場の**ミクロ構造**を整理する。

3. 問題の**改善方策**を考える

- 問題発生**の根源**を問い直す
- 忘れられた**地域性**を再発見・再構築する
- 資源・主体の**最適な組み合わせ**と**配置**を考える  
... 最大効率 vs 最大幸福, ネットワーク&クラスター  
⇒「**まとまり, つながり, よりどころ**」を構築する

★この際、

- 「**地域**」は**総合的な現象**
- ⇒「**地域構想**」は**総合的の科学**
- 「**地域構想**」は「**臨床**」の学
- ⇒**地域にあわせた対応**が必要
- ⇒「**教養学部**」にある理由がここに!

★地域を「**構想**」するとは、この**一連の地域研究**を通して、**地域の特性とその問題を理解し, 説明し, 提案**すること。

2. 地域問題, 地域づくりの**先行事例**に関心を向ける。

⇒ **本を読む, 新聞を読む, 報道番組に学ぶ, 現場に行く...**

⇒ これらを通して、

- 地域の**固有性**を生かした**地域づくりのあり方**を(に)学びつつ、
- 地域の**違い**を超えて**共通する成功・失敗の条件**を探求し
- また**実践**すること

... これがすなわち「**地域構想**」学への**入口**